

60周年記念表彰

受賞者の声

中・四国の体育に育てられた自分

元中・四国小学校健康教育研究会 理事 鳥取県

伊藤 賢二



私は、平成16年度から6年間、健康教育研究会（健教研）に鳥取県の理事として活動しました。また、保健教科書の編集委員として、『わたしたちの保健』の執筆・編集の会議のために、何度も高松へ通いました。担当する単元の執筆原稿が未完成で、列車の中で考えることもしばしばありました。また、会議を終え、次の課題を抱え重い気持ちで瀬戸大橋を渡った光景は忘れられません。

しかし、そこでの経験は、その後の教員人生にとって大変貴重であり、私の宝物となっています。特に、平成20年3月の学習指導要領改訂にともない平成23年度から全面実施という大きな節目に、文部科学省検定教科書『わたしたちの保健』の綿密検討担当として重責を担う経験は、多くのことを学びました。鳥取県で綿密検討のプロジェクトチームを立ち上げ、9県の代表者が編集した原稿を1ページずつ、1文字1文字細部にわたるまで検討していきました。それまで、中・四国の編集会議で何年もかけて検討してきた原稿を変更するのは、大変勇気があることでした。そのためにも鳥取県の綿密検討チーム全員で指導要領解説書がぼろぼろになるまで、読み込んでいったことを覚えています。変更するときは、担当県の執筆された先生と連絡をとり失礼のないように説明責任を果たすように配慮もしました。プロジェクトチームの先生方も1日の仕事を終えて会議に参加するというハードワークの中、結局、平成20年7月から平成21年3月までに100回を超える綿密検討会議を経て申請本が完成しました。

そして、さらに忘れられないのが教科書検定です。文科省の教科書検定意見通知に代表として対応することになり、東京へ。文教社の田中誠也氏と2人旅になりました。新幹線の中で、以前の検定通知で意見がかなり多く、細部にわたるまで通知されていたことを知り、不安になりました。検定意見により修正する場合の対応の仕方や今後の進め方について作戦会議をし、いざ文科省へ。文科省より検定通知が終わり、建物から出た瞬間2人は思わずガッツポーズ。ハイタッチをしたのが脳裏に焼き付いています。ほとんど、変更点がなかったからです。解説書を読み込み、忠実に作り上げた賜物でした。検定対応は無事終わりました。今までの苦労が報われた嬉しさと執筆に携わっていただいた先生方への感謝の気持ちで胸が熱くなりました。

このような貴重な経験をさせていただくことができたのも中・四国の仲間があって、初めて実現できるものだと痛感しております。保健の教科書は、中・四国の編集委員、綿密検討メンバー、文教社の皆様、執筆に携わった多くの現場の教職員の皆様の努力と絆の結晶です。教科書作成により教科書の文言、構成、意味まで考えた経験は、私にとって今でも学校現場で全ての教科指導で活かされています。中・四国の体育・保健に育てられた思いで、いっぱいです。中・四国の体育・保健のために何かできることがあれば、いつでも恩返しをしたいと思っています。中・四国の体育が今後も益々発展をされ、実践の成果をあげられます事を期待しております。

中・四国小学校体育連盟 60 周年おめでとうございます

元中・四国小学校体育連盟 会長 愛媛県

宮田 武史



この度、中四国小学校体育連盟は60周年を迎えられました。関係各位に心からお祝いとお慶びを申し上げます。6月の記念式典においては、表彰状や記念品までいただき恐縮しています。また、先輩、同僚、後輩等関係各位に感謝申し上げます。本連盟の発足時のことにつきましては、よく高知県の故門田先生にその苦勞を話していただいております、その当時のことを思い出しました。60年前は私が小学校2、3年生の頃かと思えます。ですからある意味でこの連盟にも育てていただいたこととなります。「誠にありがとうございました」という思いを強く感じます。

振り返ってみますと、私は20代に松山市内の小学校の教師になり、縁があり勤務校で体育主任となりました。体育主任になりますと、自動的にその地域の小学校体育連盟の一員になります。最初、私は松山市小学校体育連盟のポートボールやミニバスケットボール部員になりました。それからバスケット部会長、松山市小学校体育連盟副理事長、理事長、副会長、会長、更に愛媛県小学校体育連盟陸上部長、副理事長、理事長、副会長、会長等の役を仰せつかり何とか職責を果たして参りました。

中・四国小学校体育連盟は各県持ち回りの毎年秋に行われる研究大会が大きなイベントです。この研究大会が中・四国の体育教育のレベルアップを図っていると思います。私が30代の頃、松山市立椿小学校で中・四国小学校体育研究大会が開催された時、確か庶務係でかかわったように思います。40代には愛媛県の理事長として松山市立石井東小学校での研究大会にかかりました。50代では愛媛県の会長として松山市立双葉小学校での研究大会にかかりました。特に石井東小、双葉小での研究大会は印象に残っています。石井東小の時は当時の私の勤務校で夜遅くまで仕事をしました。スタッフは皆学級担任をしていて、自分の勤務校での仕事を終えてから小体連の仕事となりますので、当然夜遅くまでの仕事になるわけです。しかし皆気持ちよく精力的に活動していただき、頭の下がる思いでした。今考えてみますと、肉体的には苦勞しましたが、皆で協力して事を成就する喜びが大きかったと思います。当時の仲間と今も時々お会い致しますが、それぞれがそのようなことを口にしていきます。今は、この研究大会を通して少しは人のためになったのかなと思います。

これからも永々と本連盟は続いていくと思いますが、どうぞ皆が協力し合い、ますます充実・発展されますよう心から祈念し、受賞者の言葉とさせていただきます。 合掌

中・四国小学校体育連盟に感謝して

元中・四国小学校体育連盟 理事長 島根県

川瀬 祐悦



私は、平成9年に『わたしたちの体育』の編集部員として中・四国小体連に初めて参加することになりました。島根県の小体連のメンバーと一緒にでしたが、とても緊張して「特急やくも号」に乗っていたことを思い出します。この年は、中・四国小学校体育研究大会(島根大会)を来年に控え、中・四国小体連の中・四国理事と島根県小体連研究部長、松江市小体連研修部長、松江市教育研究会体育部研究主任等を拜命し、多くの仕事をさせていただきました。特に、研究主題を設定し研究の基盤をつくるのに四苦八苦でした。研究部員が県内各地から何度も中央小学校に集まり議論しました。この時に体育について勉強したことは一生の宝として残っています。大変でしたが頑張っただけよかったと思います。そして、翌年(平成10年)に晴天のもとで中・四国小学校体育研究大会が松江市立大庭小学校で開催できたことをうれしく思います。

平成11年から17年まで島根県小体連理事長として島根県小体連や中・四国小体連の運営に参加させていただきました。中・四国小体連では、話し合いのレベルの高さ、皆さんが真筆に仕事に取り組まれる姿に圧倒されました。『わたしたちの体育』の編集会議では、各県が宿題を持ち寄り検討します。もうこれで終わりだろうと思って提出した原稿はあっさりと修正の指示が出され、またもや宿題として持ち帰りになりました。なかなか合格にならず、大変でした。

理事長会等の会議はだいたい1泊2日で開催されました。2日間根を詰めて会議をするのはかなりきつい日程ですので、終わるとぐったりと疲れます。しかし、そういう中でも夜の情報交換は意義深いものがありました。お互いの気心が知れて、協力体制が高まり、絆は深まりました。

平成11年からは、中・四国小体連の機構改革が始まりました。これからの中・四国小体連をどのような組織にしていくのかを検討するプロジェクトチームが編成されました。この会のメンバーには、集まりやすい瀬戸内の4県と役職のなかった島根県理事長の私に加わり、5名でプロジェクトチームが結成されました。それぞれの県から中間地点として、岡山市での開催が多くありました。広島県が当番県でしたので、広島県がリードして月1回ぐらいのペースで話し合いがもたれました。話し合いの結果、中・四国小体連の組織が大きく変わり、理事長会が常務理事会に、『わたしたちの体育』の編集等の仕事を分担・再編し「研修・調査部」「編集・刊行部」「広報・組織部」の3部会制になり、現在に至っています。

中・四国小体連60周年式典で、この頃一緒に働いた仲間は何年ぶりに会いましたが、苦楽を共にした仲間はとても懐かしく、この仲間との出会いも私の一生の宝となっています。

最後になりましたが、中・四国小体連が更に素晴らしい組織となり、体育学習の発展に益々寄与されることをお祈り申し上げます。

中・四国小学校体育連盟に思う

元中・四国小学校体育連盟 会長 香川県

國重 英二



中・四国小学校体育連盟創立 60 周年誠にありがとうございます。

私がこの中・四国小学校体育研究大会に関わらせていただきましたのは昭和 55 年の琴平大会の時です。大会運営委員として、自分に与えられた仕事をするだけで精一杯でありましたが、大会の素晴らしさに感動を覚えたものでした。

その後、『わたしたちの体育』編集会に参加させていただくことになりましたが、各県を代表する先生方と毎回喧々諤々の協議を行い、1 ページをまとめるのにも多くの時間がかかり大変だったことが思い出されます。また、ある夏休み、教科書の表紙の写真を担当することになりました。私は、2 学期に子どもが登校してから撮影すればよいのと思っていたのですが、写真担当の内田さんが「表紙の写真印刷は秋空ではきれいな青色が出ないです。」「この夏休みでなければ時間がありません。」と言われ、子どもたちに来てもらって、暑い運動場で空の色を見ながら何時間もかけて撮影をしました。内容の検討もさることながら、写真やイラストなどにも細心の注意を払いながら編集が進められるこの会に参加できたことはとても光栄なことであり、その後の私の教員人生に大きな影響を与えていただいたと思っています。

2 回目は、県教委保健体育課の指導主事として関わらせていただきました。会場校は、私の尊敬する三好弘先生が校長の高松市立太田南小学校です。県下でもナンバー 1 の大規模校であり、全校体育も大変な工夫が必要でありましたが、校長先生の卓越した指導力により本当に素晴らしい研究大会となりました。私自身、指導主事としての役割を果たすより本当にたくさんの方のことを学ばせていただいた研究大会でした。

3 回目は、宇多津町立宇多津小学校であります。県教委坂出綾歌教育事務所の管理主事であったため十分なお手伝いができなかったことが残念であります。

4 回目は、香川県小学校体育連盟会長としてであります。本県では初めての 2 校開催となり、会場校の 1 つである高松市立香南小学校は梶野雅義校長先生でありました。研究や運営にリーダーシップを発揮していただき、また、高松市を中心とした県内の体育の先生方が、昼夜を惜しまず研究や運営に熱心に取り組むなど、組織が充実していることを実感する素晴らしい大会になりました。

このように私自身様々な立場で本県主催の大会を経験させていただき、また、編集会議や各県の大会に参加させていただくことで本当に多くのことを学ばせていただきました。これも一重に県下小体連の先生方のお力添えと中・四国小学校体育連盟の皆様方の温かいご支援、ご協力のお陰であり、改めて厚くお礼を申し上げます。これからも研究大会の開催を通して、若い先生方が着実に力をつけられ、立派な指導者に育つことを願うと共に、その母体であります中・四国小学校体育連盟の今後ますますのご発展をご祈念申し上げます。

多くの出会いに感謝して

元中・四国小学校体育連盟 常務理事 岡山県

有森 貢



中・四国小学校体育連盟創立 60 周年，おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。今日まで連盟を支え続けてこられた多くの諸先輩方に敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。

さて，昨年度までの 3 年間，岡山市を離れ玉野市勤務を命じられた私の通勤路には，奇しくも宇高連絡船の船着き場がありました。今ではもう，そこにフェリーの姿を見ることはなくなりましたが，この場所から「高松通い」をしていた頃を懐かしく思い出しながら，毎日通勤していました。

私が「高松通い」を始めたのは，平成 6 年のことでした。編集代表者として，初めて編集会議に出席したときのことです。「岡山県さんのご意見は？」ときかれ，岡山県を代表して会議に出席していることを改めて思い知らされると同時に，その重責がプレッシャーとして大きくのしかかってきたことや豊かな実践と理論に裏打ちされた他県の先生方の説得力ある意見に啞然とし，何も言えない自分の無力さを痛感したことが，今でも鮮明に蘇ってきます。

憂鬱な気持ちで初めての会議を終え，夕食会の席上で，会議中は近寄りがたいオーラを感じていた先生から，「初めはみんなそうだよ。会議の進め方や雰囲気慣れてくれば，少しずつ自分の考えが発言できるようになるから。」「こうして休日を返上して高松に集う先生方は，より質の高い副読本を編集し，中・四国の子どもたちや先生方に使いやすい副読本を提供するために妥協はしない。だから，厳しいことも言うけど納得いくまで議論すべきなんだよ。」など，温かい励ましの言葉やご示唆をいただいたことは忘れもしません。編集や執筆のノウハウにとどまらず，体育という教科を超えて，教師として，人として，いかに考え，発言，行動しなければならないかを編集会議を通して学んだことは，私にとって大きな財産となりました。

先輩に誘われ，右も左も分からないまま飛び込んだ「小体連」という組織から，かけがえのない「縁」と「絆」をいただきました。学校勤務だけの毎日を送っていたら，きっと会うことはなかったであろう多くの意味ある出会いに感謝しながら，微力ではありますが，これからも末永く「小体連」と共に歩んでいきたいと考えています。

終わりにになりましたが，中・四国小学校体育連盟が，強固な組織の下で，益々発展されますことを心より祈念いたしております。

私事で余談ですが，長女が徳島に嫁ぎ，長男が香川から嫁をもらいました。瀬戸大橋を架け橋に，私の「四国通い」はこれからもずっと続きそうです。これも何かの「縁」ですかね。

中・四国小学校体育連盟への感謝と期待

元中・四国小学校体育連盟 理事長 徳島県

湯口 雅史



中・四国小学校体育連盟創立 60 周年を迎え、心からお喜び申し上げます。と同時に、伝統ある中・四国小体連に少しの時間ではありますが、関わらせていただいたことに感謝申し上げます。

ある有名芸能人が「60 代は僕自身が一番楽しみにしていた年代。どう充実させていくかが大事。新たな世界を見つけたいし、気が付かなかった新しい自分を見せたい。」と語ったことが報道されました。還暦を迎え安定を求めるのではなく、あくまでも挑戦していく情熱に共感しました。中・四国小体連も 60 歳還暦を迎え、これまで培ってきた叡智を継続させていくことはもちろんのこと、挑戦心をもつことでさらなる充実・発展を志されることを期待しております。

私が、現在も体育学習に対して熱い情熱をもつことができているのは、毎年開催されます小学校体育研究大会に参加させていただいたことに尽きると思っております。とりわけ、第 39 回八万大会、第 48 回佐古大会、第 57 回八万南大会の徳島県開催においては、会場校の一員として実践研究に取り組ませていただきました。八万大会では、「自己実現」をキーワードに、子どもの自己評価のあり方や考え方を研究し、内発的動機付けに裏付けられた意欲的な運動への参加の様子を公開しました。佐古大会では、子どもの主体的な課題解決的学習への取り組みを、教師フィルター（「自己・仲間・モノ」へ関わる様子）を通して支援し、より意欲的になった子どもの姿を公開しました。八万南大会では、徳島県がこれまで研究してきた課題解決型の体育学習を深化（進化）させるべく、「動ける身体」をキーワードに、運動を行っている際に身体で感じる“おもしろい”に着目しました。そして、「普段の授業を…」をコンセプトに教師と子どもの取り組み合いが見られる授業を公開させていただきました。

これらの大会を通して今思い出すことは、研究が進むにしたがって変化していった学校の様相です。3 大会とも、時間が経つにしたがって、私も含め先生方の体育学習に対する見方・考え方に変化が見えてきました。それは、職員室でのたわいのない会話の中に体育用語が現れたり、次時の体育授業の準備について、アイデアの出し合いになったりと、職員室に緊張感の中にも心地よい雰囲気がつくられていきました。子どもも、先生方がよくよく考え出した授業に参加しているので、自分に自信をもったり、友だちを認められるようになっていたりしながら学習に取り組めるようになっていきました。「体育の研究をすると、学校全体が仲良くなる。」と、講演の度に体育研究のよさを語る先生がいましたが、まさしくそれを実感する時間を共有することができたことが、財産として今も残っています。

中・四国小体連は、地域性、文化性が異なる各県が集まり、それぞれの思いを出し合いながら前進しています。この、体育学習に関する微妙な違いが、よさであり、特徴です。高松に集い、刺激を受け合いながらそれぞれが成長していくことが、中・四国小体連の発展に寄与していくことだと確信しております。何かにつけ、ご支援いただいております文教社さんに感謝申し上げますながら、中・四国小体連のますますのご発展を御祈念いたします。

「体育科学習をととしての学び」

前中・四国小学校健康教育研究会 理事 広島県

坂口 由紀子



中・四国小学校体育連盟創立 60 年おめでとうございます。この歴史ある連盟の活動に関われたことは、私にとって大きな財産になりました。

私は健康教育研究会の一員としての参加でしたが、中・四国小学校体育連盟の合同会議で小学校体育についての多くのご示唆をいただきました。諸先輩方の中・四国の体育の発展についての熱い思いをお聞きするたび、自分自身の学びや授業への取組を振り返るよい機会となり、学習を見直し、教育界の最先端の動きを意識する視点を与えてもらえるという、素晴らしい経験をさせていただきました。

また、広島市教育研究会においては『わたしたちの体育』の活用について、授業で先生方がどのように使うことができるのか、先生方が使いやすく子ども達が学びやすいことに着眼点をおいた指導事例について、話し合いを重ね、紹介をしました。学年の先生方や体育科部会の先生方と一緒に「よい授業にしたい。もっと『わたしたちの体育』を活用して欲しい。」という思いを形にできたのではないかと思います。

これからの教育は、変化の激しい社会においてこれまでの「知識ベースの学び」に加えて、「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」を重視した「能動的な学び」を促す教育活動を積極的に推進しなくてはならないと言われています。新たな学びに向けた本連盟のますますの発展と、これからも多くの教師の実践の道標を与えてくださることを祈念いたします。

ありがとう中・四国小体連

元中・四国小学校体育連盟 会長 高知県

前田 開



中・四国小体連創立60周年おめでとうございます。そして、この度身に余る立派な60周年記念表彰をいただき心からお礼申し上げます。奇遇にも、昨年3月に定年退職を迎えた私の人生と中・四国小体連、共に歩んできた60年の歴史が重なります。

私の教員生活も、まさに小体連とともに歩んだ38年間でした。私が体育の世界に入ったのは、新採で赴任した学校が「体力づくり」文部省指定2年目、若い男性ということだけでいきなり体育主任を任されたことがきっかけ。体育仲間からの誘いで高知県小体連の一員に加えていただき、昭和52年に開催された第15回中・四国小学校体育研究大会高知大会（高知市立新堀小学校）のお手伝いをさせていただいたのが、23歳の時。研究主題は「現代社会のひずみをふまえた小学校体育」。時代の流れとともに体育科の目標も変わってきましたが、その年に発表された学習指導要領の改訂は、体育科の大きなターニングポイントでした。それまでの運動技能や体力の向上に向け教師が強い指導力を発揮する体育、いわゆる「鍛える体育」から、生涯体育に向け運動に親しむことを重視した自ら学ぶ学習、いわゆる「楽しい体育」への転換であり、この「運動の楽しさ」の追求が私のライフワークとなりました。そして、第23回高知大会（高知市立泉野小学校）では会場校に勤務。個に応じた指導を重視した体育学習を研究し、6年生のバスケットボールの授業をさせていただきました。第32回高知大会（高知市立横浜小学校）では、中・四国小体連理事長として運営に携わりました。一人一人が自らの課題に挑戦する「めあて学習」を追求し、子どもたちのいきいきと活動する姿に感動しました。更に、中・四国小体連会長として大きな責任を感じつつ迎えた第50回高知大会（高知市立横浜小学校）では、大会主題に「運動好きな子どもを育てる体育学習」を掲げ、各県の皆様方のご協力をいただき節目の大会を無事に終えることができました。それぞれの大会で、前川峯雄先生・島喜八先生・高橋健夫先生・池田延行先生・成田十次郎先生・白旗和也先生等、日本を代表する著名な先生方から時宜を得た貴重なご指導をいただいたことも大きな喜びでした。

他県の中・四国大会にもできる限り参加しました。その度に、各県の素晴らしい実践に刺激を受け、元気をもらい、中・四国小体連に育てていただいた思いがします。それぞれの県が実践を積み上げ、それを持ち寄り、互いに切磋琢磨しながら更に研究を深めていく。そういう地道な実践研究の積み重ねが、全国にも例をみない今日の中・四国小体連を創り上げてきました。

また、中・四国小体連の役員として高松に通い、体育を志す同志と語らい、素晴らしい諸先輩方のご指導を受けたのも今から思えば楽しい思い出です。道中の車のなかで、故人となられた門田宜雄先生（元中・四国小体連顧問）から、発足当時の熱い想いや苦労話、現場で採用されなければ家田畑を売るしかないという悲壮な覚悟で発刊した「だるま」のついた黒表紙の『わたしたちの体育』の話等、身の引き締まる思いで聞かせていただいたことが、昨日のことに思い出されます。

常に大所高所からご示唆をいただく顧問・参与の先生方、新たな発展を目指し活躍される各県会長・理事長の先生方、それぞれの県で実践を積み上げ『わたしたちの体育』の編集刊行に全力を注がれている若き先生方、創立当初より格別のご支援・ご尽力を賜っている株式会社文教社・牟禮印刷株式会社、全ての皆様方の総力を結集した力によって、これまで中・四国小体連の歴史と伝統が脈々と築かれてきました。皆さんの真摯な努力、固い団結とたゆまぬ歩みに頭が下がります。

創立60周年を心から祝福し、100年に向けて更なる前進・発展を祈念いたします。

ますますの発展を祈念して

元中・四国小学校体育連盟 会長 山口県

水上 哲彦



中・四国小学校体育連盟創立60周年おめでとうございます。また、6月には、60周年記念表彰を賜り、誠にありがとうございました。

ご縁があり、平成20年度から7年間、中・四国小学校体育連盟の副会長・会長としてお世話になりました。山口から新幹線・マリナーを乗り継いで高松での会議に向かったこと、中・四国各県での研究大会へ仲間と参加したことなど、楽しい思い出がたくさんできました。その間、最高顧問の成田十次郎先生をはじめ、多くの先生方に中・四国の小学校体育の発展の足跡をお聞かせいただきました。中・四国小学校体育連盟は、多くの先生方の子どもへの深い愛情と小学校体育の充実・発展をめざす高い志によって築き上げられてきたことを感じることができました。

平成25年度には山口県が担当県として、第51回中・四国小学校体育研究大会を行いました。山口県小学校体育連盟は、第51回山口大会を、第100回大会に向けてのスタートの大会と位置付け、体育学習の充実・発展に努めるとの思いを「山口から体育維新の風を・・・」の言葉に込めて大会主題を設定しました。しかし、大会当日には台風27号が接近し、激しい雨と風の悪天候となってしまいました。山口県の思いが強すぎたのか、体育維新の風を吹かせ過ぎてしまいました。10月終わりの台風接近は予想外の出来事でした。5年間かけて、山口県スタッフ全員で準備にあたってきたので、非常に恨めしい天気でした。最高顧問の成田十次郎先生、顧問の方川淳先生に幾度となく相談に乗っていただき、大会日程を変更するなどして何とか開催にこぎつけることができました。悪天候の中、中・四国各県の先生方の参加について心配しましたが、多くの先生方が最後まで参加してくださり、大会を盛り上げていただきました。先生方の研究に対する熱い思いと「中・四国は一つ」と言われるように、中・四国小学校体育連盟の団結力を感ずることができた大会でした。近頃、10月の終わりになっても台風が発生し、日本に接近してくることが多くなりました。これからの研究大会がいつも天候に恵まれ、元気いっぱい活動する子どもたちの姿がたくさん見られる大会になることを祈念しています。

終わりに、教育界には困難な課題が山積しています。子どもたちの健やかな成長と生きる力を育むために、体育に寄せられる期待はますます大きくなっていくと思います。中・四国各県の先生方と関係者の皆様のお力により、中・四国小学校体育連盟が、世界一の教育研究団体として発展していくことを期待し、お祝いとお礼の言葉とさせていただきます。

準教科書『わたしたちの体育』・
『表現運動 CD』の効果的な活用法

「わかる・できる」をめざす授業展開の工夫
「マットあそび」 1・2年 器械・器具を使つての運動遊び

『わたしたちのたいいく』 P.38～41
 鳥取大学附属小学校 教諭 田中 和幸

1 はじめに

本単元は、器械・器具を使つての運動遊びの中の一つである。単元を通して、支持、手足での移動、逆さ姿勢、回転などの基本的な動きができるようになっていたり、動き方を工夫したりすることをねらいとしている。このように、本単元は、中学年以降のマット運動につながる大切な学習となる。

マット遊びに初めて取り組む児童もいるので、しっかりと基礎となる感覚を身に付けさせながら、学習を進めていきたい。しかし、1年生ということもあり、近くに手本となれる存在が少ないので、『わたしたちのたいいく』を活用し、正しい運動の仕方に気付いたり、自分なりのコツを共有化したりして、基礎感覚や基本となる技能を高めることができるようにした。また、個の実態に合わせて学習が進められるように、『わたしたちのたいいく』に自分たちが気付いた技のポイントを記すようにした。自分たちにとって、よりよい教科書づくりを通して、一つ一つの運動にじっくり取り組めるような授業実践を行うこととした。

2 実践内容

(1) 単元名 「マットあそび」『わたしたちのたいいく』 1年 P.38～41

(2) 単元目標

- いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすることができるようにする。 【技能】
- マットを使った運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【態度】
- 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

(3) 単元計画 (全7時間)

時	1	2～5	6～7
学習活動	オリエンテーション 準備運動 「やってみよう」	活動① ・きまりを守ってマット遊びをしよう。 活動② ・いろいろなマット遊びをしよう。	活動① ・きまりを守ってマット遊びをしよう。 活動② ・いろいろなマット遊びをしよう。 ・二人やみんなでマット遊びをしよう。

(4) 授業の実際

① 「やってみよう」での活用

学習の導入に、「マットを使っているいろいろな動物の歩き方をするよ。」と声をかけた。教師の説明だけでは動きが分かりにくいので、『わたしたちのたいいく』を見ながら、いろいろな歩き方に挑戦した。運動が終わった後は、『わたしたちのたいいく』に載っている絵にシールを貼り、自分なりのコツ（自分だけが分かる、気を付けるところ）を友達に伝えた。1年生でまだなかなか自分の思いを伝えられない子どもも、友達と思いを共有し、学習を深めることができた。



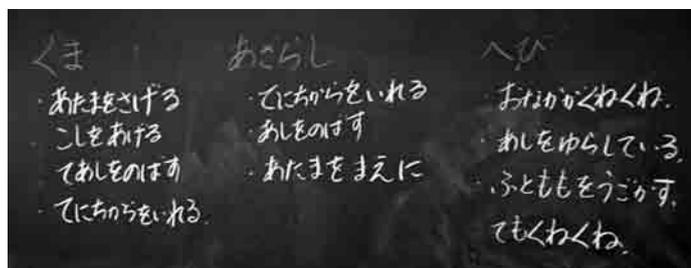
② 「活どう」の中での活用

ゆりかごやまるたころがりを見せ合いながら活動した。「やってみよう」の活動と同じように、動きの確認をしたり、自分なりのコツを『わたしたちのたいいく』を使って友達に伝えたりしながら行った。うまくできた友達の真似をして、自分なりのコツを全体のポイント（自分だけでなく友達にも分かる、気を付けるところ）として広げながら、学習を進めることができた。



3 終わりに

学習の導入部分に『わたしたちのたいいく』を活用することで、動きのイメージを広げたり深めたりすることができた。最初は、ただ四つん這いで歩いていた子どもも、友達の『わたしたちのたいいく』の絵は、膝が伸びているよ。」や「手にもしっかりと体重をかけて、歩いているんじゃないの。」という言葉聞いて、動きに変化が現れてきた。また、実際の学習では、自分なりのコツやポイントを『わたしたちのたいいく』の絵にシールを貼りながら、動きを確認していった。それを基にすることで、普段発言の少ない子どもも積極的に話し合いを進めることができた。『わたしたちのたいいく』を使いながら進めたことで、いつも以上に友達同士の関わり合いが多い楽しい実践となった。



ぷかぷか・ぶくぶく ～はまっ子 水あそびたい～

2年 水遊び

『わたしたちの体いく』P.18～21

高知県高知市立横浜小学校 教諭 石川 ひかり

1 はじめに

『わたしたちの体いく』に掲載されている活動を大きく4つの場に分け、ペアでローテーションして活動するようにした。その際、どの活動を行うかバディと相談して決定するために、四隅にある掲示物の『わたしたちの体いく』の絵を見ることで、視覚的支援になるよう工夫した。朝読書の時間には、授業のイメージがしやすいように、『わたしたちの体いく』の絵を見る時間をとり、その日の授業への楽しみや挑戦意欲が持てるようにした。また授業後には、『わたしたちの体いく』をシートにしたもので振り返りを行い、もう少しでできるようになることや、自分ができるようになったこと、できるようになりたいことなどを書く活動も行った。それぞれのがんばりをコメントで評価しながら、他の児童にも紹介していくようにすることで、次時への意欲に繋がるだろうと考えた。

2 実践内容

(1) 単元名 「水遊び」『わたしたちの体いく』 2年 P.18～21



(2) 単元目標

- 水に慣れる遊びでは、水につかったり移動したりすることができるようにする。 【技能】
- 浮く・もぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりすることができるようにする。【技能】
- 運動に進んで取り組み、仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。 【態度】
- 水遊びの簡単な遊び方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

(3) 単元計画 (全 12 時間)

第1次 (1時間)	第2次 (2～6時間)	第3次 (7～12時間)
オリエンテーション	・水に慣れる遊び ・浮く・もぐる遊び	・水に慣れる遊び ・ローテーション遊び

(4) 意欲を継続させる工夫 (運動量の確保)

身に付けさせたい動きを、ローテーションして活動するようにした。バディと共に4つの場を回り、自分たちがやりたい動きを決定し、取り組むことで意欲を継続し、力いっぱい活動に取り組むことができるようにした。

<4つの場>

- ① ぷかぷかコーナー……くらげ浮き・だるま浮き・大の字浮き
・らっこ浮き・えんぴつ浮き
- ② ぶくぶくコーナー……カニさんぶくぶく・息吐きエレベーター・連続ロケット
- ③ いるかコーナー……じゃんけん股くぐり・輪くぐり
- ④ あまちゃんコーナー…宝探し(色や形を指定して取る、ひとつもぐりで何個取れるか)



※『わたしたちの体いく』P.19～21

(5) 特性に応じた動きづくり

1年生のときに行った「浮く・もぐる」活動は、今後の水泳学習の基本になる動きとなるので、毎時間取り組み、技能の定着とともに、水に親しむ心を持たせるようにした。また、技能をより獲得しやすくするために、児童にイメージしやすく分かりやすい言葉を用いて指導することを心がけた。

○くらげ浮き…だらーりくらげ ○だるま浮き……………ぎゅっとだんご浮き

○大の字浮き…ぱっと大の字 ○ストリームライン浮き…ピーンとえんぴつ など

さらに、『わたしたちの体いく』にもポイントになる言葉を書き込み、動きへの意識付けを行った。



(6) 言語活動（関わり）

「いつでも・どこでも・だれとでも」を合言葉に、多くの友達と一緒に活動するようにした。その際、目指す動きができていないかを互いの活動を見て評価し合ったり、アドバイスをしたりして関わり合いながら活動できるようにした。また、評価し合えるポイントは、教師が提示するようにした。

児童に感想を書かせたいという思いから、『わたしたちの体育』3年P.29の学習のあしあとをワークシートにし、授業後の振り返り活動で使用した。それぞれのがんばりをコメントで評価しながら、他の児童にも紹介していくようにした。



※『わたしたちの体育』3年P.29

3 終わりに

『わたしたちの体いく』に掲載されているイラストを基に、ペアでの学習を行った。視覚的に支援をしたことで、どのような動きをすればよいのかイメージしやすく、技能の習得が早くなったのではないかと考える。また、ペアとの言語活動の中でも、「わかを増やしてみよう。」「手がぴーんと伸びているよ。」などの声がたくさん聞こえるようになり、友達との関わり方にも変化が見られた。

今回の振り返りでは、『わたしたちの体育』（3年）の学習のあしあとを使用した。これは、『わたしたちの体いく』（2年）では、毎時間3つの項目への自己評価のみとなっていたので、児童の感想を形にしたいという思いからであった。始めは、「楽しかった。」などの単調な感想が多かったが、感想を帰りの会などで紹介したり、指導者がコメントを書いたりする中で、単元が進むにつれてペアがうまくなったところや、できるようになった動きなどについて具体的に書けるようになった。このように、次学年のものを使用することも、学習を深めるために有効であることが分かった。

イメージを膨らませ、意欲が高まる授業の実践

「ならべて つなげて ぴょんぴょんあそび」2年 走・跳の運動遊び

『わたしたちの体いく』P.34～37

香川県高松市立栗林小学校 教諭 藪本 ひかる

1 はじめに

走・跳の運動遊びは、仲間と競い合う楽しさや、調子よく走ったり跳んだりする心地よさを味わうことができ、体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなどのいろいろな動きを身に付けることを含んでいる運動である。そこで、『わたしたちの体いく』の「とびっこあそび」を参考にして、単元導入時では様々な跳の運動遊びを行う中で、より高く、より遠くへ跳ぶ方法について考え、単元終末時ではグループ毎に自分たちのコースを考え、跳んでいる姿を友達に発表し、交流することにした。『わたしたちの体いく』を参考にすることで、具体的なイメージをつかませながらコースを作ったり、自分ができた動きに色を塗って、達成度が視覚的に捉えられるようにしたりして、子どもたちが意欲的に学習できるようにしたい。

2 実践内容

(1) 単元名「ならべて つなげて ぴょんぴょんあそび」(とびっこあそび)

『わたしたちの体育』2年 P.34～37

(2) 単元目標

- 跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができるようにする。【技能】
- 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。【態度】
- 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫できるようにする。【思考・判断】

(3) 単元計画 (全7時間)

時	学習活動	子どもの意識	教師の支援
1	○オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・『わたしたちの体いく』を見るといろいろなものを跳んでいて楽しそうだな。 ・最後には、自分たちのコースを作って跳んでみたいな。 ・きまりを守って、安全に友達と仲よく学習しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『わたしたちの体いく』を使って、単元を通しての課題を作る。実際の活動も組み込みながら、跳びっこ遊びの学習のねらいや進め方を説明する。 ○きまりや学習の場の安全面には十分配慮する。 ○「学習のまとめ」の使い方を説明する。
2	○いろいろなものを跳んで遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・両足跳びや片足跳び、向き変え跳びなど、跳び方にはいろいろな跳び方があるんだな。 ・いろいろなものを跳んでみたけれど、中でもマットを跳び越えるのが難しいな。 ・もっと練習して、うまく跳び越えられるようになりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○跳びっこ遊びに必要な感覚を味わわせる。 ○『わたしたちの体いく』を参考に、きまりや跳び方を確認してから行わせる。 ○子どもの動きを見たり、声をかけたりしながら、課題が見つかるようにする。 ○次時の課題を明確にする。
3 4	○跳び方のコツを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> ・勢いをつけたまま、片足で踏み切ると遠くまで跳べて、簡単にマットを跳び越えられるようになったよ。 ・跳んでいるときに、腕を勢いよく上げると高く、遠く跳べて、ゴムを跳び越えられたよ。 ・「バンッ！」と音がするように、安定した着地をするとカッコいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○跳びっこ遊びに必要な感覚を養わせる。 ○『わたしたちの体いく』を参考に、一つの動きを確認しながら行わせる。 ○子どもの動きを見ながらポイントを指導する。

5 6	活動③ グループでいろいろなコースを作って、びよんびよんあそびをしよう。	
	○コースを作って遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく跳ぶためのコツを生かして跳んでみると、前よりもうまく跳べるようになったよ。 ・自分たちでいろいろなものを並べて、コースを作ると楽しいな。 ・もっといろいろなコースを作って跳んでみたいな。
7	活動④ 他のグループが作ったコースで、びよんびよんあそびをしよう。	
	○他のグループのコースで遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・○○さんの跳び方がかっこいいな。ほくもあんなふうに跳んでみたいな。 ・○グループのコースは、難しそうだけど面白そうだな。跳んでみたいな。 ・いろいろな跳び方がうまくできるようになったよ。

(4) 授業の実際

①達成した動きを視覚的に捉えるための支援

『わたしたちの体いく』P.34～37を見て、子どもたち一人ひとりがその日にできるようになった動きを振り返り、項目に色を塗る。色を塗る活動を通して、ただやっただけで終わらせるのではなく、その日の活動を思い出しながら、できるようになったことを視覚的に捉えることができ、自己評価をすることができていた。



【『わたしたちの体いく』P.34, 35を記入している子どもの様子】

②具体的なイメージを持たせるための支援

単元導入時に『わたしたちの体いく』P.34～37を見ることで、単元終末時にどんなことをしたいか、どんなことができるようになりたいかの、単元を通しての課題を持たせることができた。また、自分たちのコース作りの際にも、『わたしたちの体いく』を参考にすることで具体的なイメージが持て、道具の組み合わせや並べ方を考えながら、さらに発展したコースを考えることができていた。



【『わたしたちの体いく』P.34～37を参考にコースを作っている様子】

③学習のまとめの活用

『わたしたちの体いく』P.37の学習のまとめを活用することで、本時の振り返りをして、次時への課題づくりへ繋げることができていた。また、△(がんばろう)を記入している子どもには、次時にアドバイスや称賛の声をかけるなどの支援をすることができ、教師が子どもの実態を把握するための手立てとなった。



【『わたしたちの体いく』P.37の学習のまとめ】

3 終わりに

本実践では、『わたしたちの体いく』を用いたことで、活動のイメージが持ちにくい低学年の子どもにも具体的な活動例を示すことができ、子どもの「やってみよう」や「こんな風になりたい」という意欲が高まった。また、書く活動を通して振り返りを行うことで、自己評価や次時への課題づくりをすることができ、分かったことや、できるようになったことが明確になり、教師の見取りにも繋がった。今後も『わたしたちの体いく』を活用し、子どもたちが意欲的に取り組める授業づくりに取り組んでいきたい。

運動の楽しさを味わいながら技能を高める授業の実践

「シュートゲーム」1・2年 ゲーム

『わたしたちのたいいく』P.30～33

島根県西ノ島町立西ノ島小学校 教諭 高宮 秀司

1 はじめに

低学年の「ゲーム」では、「簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすることができるようにする。」ことをねらいとしている。本校の低学年は、ボールをスムーズに投げたり捕ったりすることができない子どもが多い。そこで、『わたしたちのたいいく』を活用し、子どもたちが楽しみながらボール操作の技能を高めることができる授業を実践した。

2 実践内容

(1) 単元名「シュートゲーム」『わたしたちのたいいく』 2年 P.30～33

(2) 単元目標

- 簡単なボール操作やボールを持たないときの動きによって、的に当てるゲームや攻めと守りのあるゲームをすることができるようにする。 【技能】
- ボールゲームに進んで取り組み、きまりを守って仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができる。 【態度】
- 簡単な規則を工夫したり、攻め方を決めたりすることができる。 【思考・判断】

(3) 単元計画 (全 10 時間)

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習活動	○オリエンテーション ・学習の進め方を確認する。 ・「島根県民思いやりの対面パス」をする。 (島根県教委作成「しまねっ子! 元気アッププログラム」の活用)		【活動1】 ○きまりを守って、シュートゲームをしよう。 ・対面パスをする。 ・シュートゲーム①(攻守交代型)をする。 ・振り返りをする。			【活動2】 ○ルールやゲームの仕方を変えて、シュートゲームをしよう。 ・対面パスをする。 ・シュートゲーム②(攻守混合型)をする。 ・振り返りをする。				

(4) 授業の実際

①オリエンテーションでの活用

オリエンテーションでは、『わたしたちのたいいく』を見ながら、単元全体の流れの見通しを持たせた。イラストを見て運動の内容をおおまかに理解した子どもたちは、「早くゲームがしたい!」と発言し、学習への意欲を持つことができた。



②作戦タイムでの活用

試合前には『わたしたちのたいいく』のイラストを見ながら、作戦を練る時間を設けた。その中で、攻めるときのポジションや動き方を考える子どもたちが出てきた。イラストにあるように、前に走ってボールを要求することや、下がって守備に備えておくことなどを、自分たちで考えて実践しようとしていた。





③振り返りでの活用

授業後、子どもたちは『わたしたちの体いく』の「学しゅうのまとめ」の欄を使って、3つの観点で振り返りを行った。

- (ア) いろいろなシュートゲームができたか。
- (イ) 友達と協力して学習できたか。
- (ウ) 友達のよい動きを見つけられたか。



それに合わせて、ワークシートを用意し、どのゲームが楽しかったか、その理由を記入した。

【授業後の児童の感想（その運動が楽しい理由）】

<p>○シュートゲーム①（攻守交代型）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点がどんどん増えていくのが楽しいから。 ・コーンが1つだけだと、どのコーンをねらえばいいかが分かりやすいから。 ・みんなが集まっているから、応援もしやすい。 	<p>○シュートゲーム②（攻守混合型）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらのチームも、攻めたり守ったりすることができるから。 ・広いコートでできたから。 ・守りの人が広がっていて、コーンに当てやすかったから。
--	---

3 終わりに

本実践により、子どもたちは楽しみながら、投げたり捕ったりという簡単なボール操作を身に付けていくことができた。

また、『わたしたちの体いく』を活用したことにより、2つの成果が得られた。1つ目は、学習への見通しを持つことができた点である。ゲームの様子がイラストで書かれていたことで、子どもたちに運動についての具体的なイメージを持たせることができ、意欲の向上に繋がった。2つ目は、『わたしたちの体いく』に載っている「声を出すといいよ。」「パスして。」などの言葉から、子どもたちがボールの運び方のコツに気付き、運動に生かすことができた点である。

この「シュートゲーム」のよさは、ボールの運び方やシュートの仕方、守り方に工夫をしやすい点にある。攻撃側では、空いている味方を見つけてパスをしたり、バスケットボールのようにジャンプしながらシュートをしたりする子もいた。また守備側では、バスケットボールのように手を上げてボール保持者につく子、ボール保持者の逆サイドに常について、シュートミスやパスカットをねらう子もいて、たくさんの子が活躍できた。次学年以降のゲーム・ボール運動の領域に発展する内容も多かった。

なりきって踊るおもしろさを味わえる体育学習 「いろいろな くにへ 行こう」2年 表現リズム遊び

『わたしたちの体いく』P.22～25
徳島県徳島市不動小学校 教諭 川内 美希

1 はじめに

表現リズム遊びは、運動が苦手な子どもも、そのおもしろさを味わいながら、自分を表現しやすい運動遊びである。低学年の子どもは、なりきりの世界へ入り込むことが好きで、表現リズム遊びの授業を楽しみにしている子が多い。そこで心と体を解放させられるよう、身近な動物や乗り物など、特徴を捉えやすい題材で単元を設定することにより、よりなりきって動くおもしろさを味わえられると考え、本単元を設定した。

2 実践内容

(1) 単元名「いろいろな くにへ 行こう」『わたしたちの体いく』 2年 P.22～25

(2) 単元目標

- 身近な題材の特徴を捉え全身で踊ることができるようにする。
- 軽快なリズムに乗って踊ることができるようにする。 【技能】
- 運動に進んで取り組み、誰とでも仲よく踊ったり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【態度】
- 簡単な踊り方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

(3) 単元計画（全4時間）

	1	2	3	4
	いろいろなくに	虫のくに	海のくに	きょうりゅうのくに
学習の流れ	「やってみよう」			
	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達と「かがみあそび」(P.22)をして、心と体をほぐす。 			
	「リズムあそび」			
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて、おしりをふったりスキップをしたりして、表現リズム遊びに必要な動きを身に付けさせる。 			
	「活動①」 いろいろな生きものに なりきって おどろう。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・『わたしたちの体いく』を参考に、生きものの動きのイメージやオノマトペを確認し合う。 ・教師と一緒に、2～3つの生きものを一緒に踊る。 			
	「活動②」 友だちと すきな生きものに なりきって おどろう。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に簡単なお話づくりをして、イメージをより広げながらなりきって踊る。 ・見せ合いをして、よかったところや工夫しているところを見つける。 			
				

(4) 『わたしたちの体いく』『表現運動 CD』を活用した授業の実際

①導入「やってみよう」「リズムあそび」での活用

『わたしたちの体いく』P.22 『表現運動 CD』 CD：V-2, I-13, 14, 15

本時につながるような動きを取り入れながら、教師と同じ動きをしたり、友達と向かい合って同じ動きをしたりする「かがみあそび」は、心をほぐしながら楽しい雰囲気の中で踊ることができた。毎時間の導入部分に取り入れていたので、授業が進むにつれ、音楽を聞くだけで体を自由に動かして心と体をほぐしていく姿が見られた。また、『わたしたちの体いく』を見て、動きの宝物を増やしていくにつれて、自分で動きを工夫しながらリズムに乗って踊れるようになってきた。



『わたしたちの体いく』P.22



②「活動①」での活用

『わたしたちの体いく』P.22, 23 『表現運動 CD』 CD：I-10, 11, 12

毎時間、テーマに合った音楽をかけ、『わたしたちの体いく』を見てイメージを膨らませながらなりきって踊ることができた。なりきっている生きものの、鳴き声や動くときの音を実際に声に出すことによって、よりなりきるおもしろさを味わっている姿が見られた。



③「活動②」での活用

『わたしたちの体いく』P.24, 25 『表現運動 CD』 CD：I-10, 11, 12



「活動①」で味わったなりきって踊るおもしろさを友達と共有するために、友達と一緒に簡単なお話づくり（「大変だ！」の場面を入れる）をして、お互いに見せ合いをした。授業の終わりには『わたしたちの体いく』に本時の振り返りを書き込むことにより、次時への意欲へと繋げていった。



3 終わりに

低学年の子どもは、なりきって踊るおもしろさを簡単に味わいやすい。しかし、よりなりきって踊るおもしろさを味わわせるためには、『わたしたちの体いく』のイラストや吹き出しがとても効果的であった。さらに、『表現運動 CD』を活用することにより、表現リズム遊びの授業に対する先生方の心のハードルが低くなるであろうと考えられる。これからも、体育の授業において効果的に『わたしたちの体いく』を活用・実践していきたい。

ねらいを明確にして、運動のおもしろさを味わえる体育

「フラッグフットボール」4年 ゲーム

『わたしたちの体育』P.78～83

岡山県岡山市立御南小学校 教諭 藤原 佑貴

1 はじめに

今回取り上げたフラッグフットボールは、本学級の子どもたち全員が初めて経験する運動であった。フラッグフットボールは、相手をかかわしながら、組織的にボールをゴールに運んでいくことが運動のおもしろさであると捉えることができる。そして、「いかにしてチームで立てた作戦を使ってボールを運ぶか」ということが学習内容となる。初めて出会う運動であること、作戦を軸とした授業展開が必要となることから、視覚的な支援が重要であると考え、『わたしたちの体育』を活用しながら授業を進めていく計画を立てた。

ルールの確認やゲームの進め方、パスやランのやり方や作戦の立て方など、『わたしたちの体育』を資料として授業実践を行うこととした。

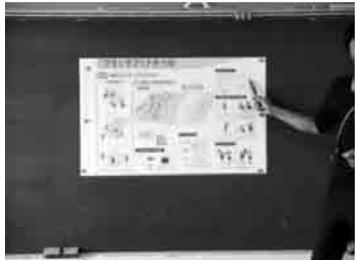
2 実践内容

(1) 単元名「フラッグフットボール」『わたしたちの体育』4年 P.78～83

(2) 単元目標

- ボールを手で操作したり、空いている場所に素早く動いたりしてゲームをすることができる。【技能】
- 運動に進んで取り組み、ルールを守って運動したり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。【態度】
- 自分やチームの動きにあった簡単な作戦を立てている。【思考・判断】

(3) 単元計画 (全7時間)

時	学習活動	『わたしたちの体育』の活用
1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいと進め方を知る。 ○きまり、学習の場、安全面について知る。 ○「やってみよう」を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・フラッグ取りおに ・すりぬけゲーム  <ul style="list-style-type: none"> ○「学習のあしあと」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○P.78, 79を見て、ねらいやきまりについて確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ○P.83の「学習のあしあと」の使い方を説明する。

<p>2 5</p>	<p>活動① ゲームの仕方を知り，フラッグフットボールをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲームの進め方や基になるルールについて知る。 ○いろいろな動き方やボールの持ち方などについて知る。 ○チームで作戦を立てて練習する。 ○ゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ランゲーム ・パスゲーム① ・パスゲーム②   <ul style="list-style-type: none"> ○「学習のあしあと」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○P.78～81を見て，ゲームの進め方や基になるルールについて説明する。  <ul style="list-style-type: none"> ○拡大したイラストを掲示し，子どもたちがイラストを見ながら話し合いを行えるようにする。 
<p>6 7</p>	<p>活動② 作戦を工夫して，フラッグフットボールをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基になるルールについて知る。 ○作戦の工夫について知る。 ○チームで作戦を立てて練習する。 ○ゲームをする。 ○「学習のあしあと」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○P.82を見て，ルールの工夫や作戦の工夫について説明する。 ○拡大のイラストを使い，全体で動きのよさやイメージを共有する。 

3 終わりに

本実践では、『わたしたちの体育』を活用したことで，子どもたちが動き方や作戦のイメージを共有したり，ゲームの進め方や基になるルールを教師が子どもたちに徹底したりすることができた。教師が実際に手本を示すだけでなく，全員で同じイラストを見ることにより，視覚的にも動き方をイメージすることができた。また，活動①では，まずボールを持っていないときの動き方を楽しむことに主眼をおいたランゲーム。次にパスをキャッチする楽しさを味わうパスゲーム①。最後にパスからランにつなげる本来のフラッグフットボールの楽しさに近づいていくパスゲーム②へと段階的に学習していくことで，無理なく，そしてねらいを明確にした学習を進めていくことができた。そのことが活動②において，4回の攻撃で自分たちなりの動きを組み合わせ楽しんでいくことができた大きな要因だと考えている。今後も『わたしたちの体育』を活用して，よりよい体育学習を実践していきたい。

見通しを持って取り組むマット運動

「マット運動」 6年 器械運動

『わたしたちの体育』 P. 6～13

広島県広島市立幟町小学校 教諭 栗塚 祐二

1 はじめに

子どもたちが安心して授業に参加し、学習効果を上げるためには、見通しを持って学習に参加することが大切である。短い時間で場を準備し、支援の必要な子どもにも一目で学習内容を理解させたい。そのために、以下の効果をねらって『わたしたちの体育』を活用する。

- ①場づくりの見通し
- ②運動内容の見通し
- ③学習の流れの見通し

2 実践内容

(1) 単元名「マット運動」 『わたしたちの体育』 6年 P. 6～13

(2) 単元目標

- 自己の能力に合った、基本的な回転技や倒立技を安定して行うとともに、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすることができるようにする。 **【技能】**
- 技を高めたり、組み合わせたりする楽しさや喜びに触れながら、進んで取り組むことができるようにする。 **【態度】**
- 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫できるようにする。 **【思考・判断】**

(3) 単元計画 (全6時間)

学習の段階	前転系	倒立系	後転系	後転系	連続技	連続技
時	数	2	3	4	5	6
学習活動	・前転 ・開脚前転	・腕立て横跳び越し ・側方倒立回転	・後転 ・開脚後転	・後転 ・伸膝後転	・できる技を繰り返す ・2つの技を繋げる	3つの技を組み合わせる

(4) 授業の実際

①場づくりの見通しを持つために

後転ができない人への支援として、回転加速をつけるために、ロイター板や踏み切り板を入れる。図1を見ることで、物の配置が分かり、どんな運動をするのかイメージを持つことができる。また、側方倒立回転で、脚の上がりを見視的に分かるようにするために、ゴムひもを使って練習する。図2を見ることで、ゴムを持つ人の立ち位置も分かる。



【図1 P. 8】



【図2 P. 9】

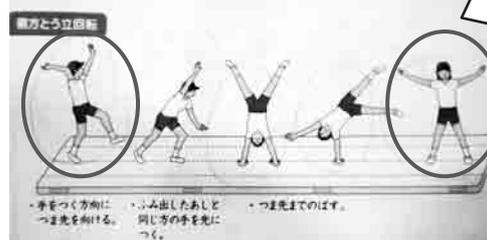
②運動内容の見通しを持つために

運動は一瞬で終わってしまい、運動経過を映像のスローモーションのようにコマ送りにすることはできない。しかし、『わたしたちの体育』の絵を手がかりに、試技の中で同じ姿勢になっているかを確認することなら可能である。運動局面は5つに分けられている。絵と同じ横から見て、できていたら、その絵に○を付ける(写真1)。こうすることで、どの運動局面でつまづいているかが分かり、見通しを持って練習することができる。

また、運動の始めと終わりの姿勢に着目させるだけで、運動内容をイメージし易くなり、個人やグループでもスムーズに練習することができる(図3)。



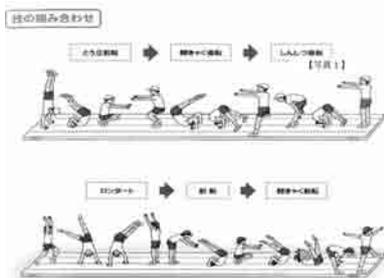
【写真1】



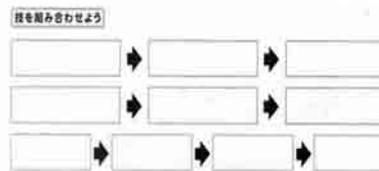
【図3 P.9】

③学習の流れの見通しを持つために

単元の最後には、自分のできる技を組み合わせさせて連続技をする。子どもたちがどう技を繋げていくのかを考える際に、『わたしたちの体育』の例示が役に立つ(図4)。どの技とどの技を繋ぐとスムーズにできるか、大体の流れをつかんだ上で自分の技を記入することができるからである。自分が授業をした際には、前転系、後転系、倒立系の技の中から1つずつ選ぶよう指導した。



【図4 P.11】



【図5 P.12】



【写真2】

3 終わりに

『わたしたちの体育』の絵図を活用することで、子どもたちに見通しを持たせることができた。デジタルカメラや視聴覚機器を使っても同じような効果が上がるかもしれないが、全員が持っている、直接書き込めるという利点がある。また、絵に描かれている手の着き方や体の向きなどは正にお手本であり、個人やグループで練習するときに着目させるだけでも運動理解に繋がる。技の始めと終わりがはっきり示されている点も、最後の着地まで丁寧に指導するというメッセージだと受け止めている。このように見通しを持って学習を進める手がかりとした。



【図6 P.13】

中・四国小学校体育連盟 60 周年記念

第 53 回 中・四国小学校体育研究大会 (愛媛大会) 報告

1 はじめに

「いで湯と城と文学の町」である愛媛県松山市において、中・四国小学校体育連盟 60 周年記念事業を締めくくる第 53 回中・四国小学校体育研究大会が開催されました。会場校の松山市立椿小学校には、県内外から 780 名の先生方に御参会いただき、大変有意義な研究大会となりました。

本県では、研究主題「愛顔（えがお）いっぱい 体育学習」の下、「仲間との豊かなかかわり」「教材との豊かなかかわり」「豊かなかかわりを支える ICT の活用」という三つの共通の研究視点を持ち、県小体連、各郡市小体連、会場校が一体となって、主体的に実践研究に取り組んできました。大会当日、多くの方々からいただいた貴重な御意見を基に、さらに主体的に「わかる」「できる」喜びを追求し、仲間と協働的に個や集団の課題を解決していく、「愛顔いっぱいの子ども」を育てていきます。

御指導いただいた先生方をはじめ、関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

2 期 日 平成 27 年 10 月 30 日 (金)

3 会 場 松山市立椿小学校

4 大会主題 ^{えがお}
愛顔いっぱい 体育学習
— 豊かなかかわりを通して —

5 公開授業

	学年	領 域	単 元 名
提案授業①	1 年	ゲーム (鬼遊び)	レッツエンジョイ! しっぽとりボールはこびおに
	2 年	走・跳の運動遊び	レッツとびっこ! つばきッズぼうけんランド
	3 年	器械運動 (鉄棒)	レッツチャレンジ! くるりん・パッ
	4 年	器械運動 (跳び箱)	レッツチャレンジ! つばきッズオリンピック
	5 年	保健 (けがの防止)	椿小 健康・安全気をつけ隊
	6 年	保健 (病気の予防)	椿小 健康生活続け隊
提案授業②	1 年	体づくり運動 (多様な動き)	レッツプレイ! つばきッズワールド
	2 年	表現リズム遊び	レッツへんしん! つばきッズアリさんワールド
	3 年	保健 (毎日の生活と健康)	みんなスマイル けんこうつばきッズ
	4 年	保健 (育ちゆく体とわたし)	大人へのパスポート ～ドキドキ、ワクワクこれからのわたし～
	5 年	ボール運動 (ハンドボール)	レッツシュート! 汗をかけ、全員ハンドボール
	6 年	陸上運動 (走り幅跳び)	レッツジャンプ! チーム対抗幅合戦

6 分科会

番号	分科会	分科会テーマ	担当
1	体づくり運動 (体ほぐし)	仲間との交流を通して、体を動かす楽しさや心地よさに気付かせることで、進んで運動に取り組む愛顔いっぱいの子どもを育てる	大洲市 島根県
2	器械・器具(低)	器械運動につながる感覚や動きを身に付けさせ、運動遊びの楽しさを十分に味わわせることで、伸び伸びと体を動かす愛顔いっぱいの子どもを育てる	今治市・越智郡 高知県
3	走・跳の運動 (低・中)	走・跳の運動に関する課題を把握させ、学習展開を工夫することで、運動することの楽しさや心地よさを味わう愛顔いっぱいの子どもを育てる	西予市 岡山県
4	ゲーム (低・中)	仲間と支え合いながらゲームに必要な動きを身に付けさせることで、「わかる」「できる」楽しさや喜びを追求する愛顔いっぱいの子どもを育てる	東温市 山口県
5	体づくり運動 (多様な動き・体力)	仲間と豊かにかかわり合える学びの場を工夫することで、自他の伸びを実感しながら運動する楽しさを味わう愛顔いっぱいの子どもを育てる	新居浜市 鳥取県
6	器械運動 (中・高)	器械運動の楽しさを仲間と共に追求させることで、できる喜びを分かち合う愛顔いっぱいの子どもを育てる	宇和島市 徳島県
7	陸上運動 (高)	仲間とのかかわりを大切にしながら、記録に挑戦させたり、競い合わせたりすることで、運動の楽しさや喜びを感じ合う愛顔いっぱいの子どもを育てる	西宇和郡 徳島県
8	水泳 (低・中・高)	水泳に必要な運動感覚や動きを身に付けさせることで、仲間と共にひたむきに運動に取り組む愛顔いっぱいの子どもを育てる	伊予市 高知県
9	ボール運動 (高)	仲間と協力してボール運動の楽しさや喜びをチームで共有させることで、夢中になって運動する愛顔いっぱいの子どもを育てる	松山市 香川県
10	表現運動 (低・中・高)	仲間とのかかわりを通して、豊かな身体表現を引き出すことで、心身を解放して踊る楽しさや喜びを味わう愛顔いっぱいの子どもを育てる	西条市 広島県
11	保健 (中・高)	心と体の状態に気付かせたり、健康で安全な生活を送るための知識を身に付けさせたりすることで、自ら考え振り返る愛顔いっぱいの子どもを育てる	四国中央市 香川県
12	異学年合同	異学年の仲間と豊かにかかわり合わせることで、「わかった」「できた」という喜びを共に感じ合う愛顔いっぱいの子どもを育てる	上浮穴郡 南宇和郡

7 記念講演骨子

「愛顔いっぱいの体育学習をめざして ― 中・四国から新しい風を ―」

愛媛大学教育学部 准教授
愛媛県小学校体育連盟スーパーバイザー



日野 克博 先生

教育改革の動向と体育の授業

今、様々な教育改革やスポーツ改革が進んでいることに注目していかなければならない。学習指導要領改訂、スポーツ庁設置、そして、東京オリンピックなどがある。東京オリンピックでは、「全ての人が自己ベストを目指す」「一人ひとりが互いを認め合う」「未来につなげる」という三つのコンセプトが示されている。これら三つのコンセプトは、体育の授業にも当てはまる。そうした改革期には、不易と流行をしっかりと確認しておく必要がある。不易とは、社会がどのように変わっても大切にすべきことである。例えば、「声だせ、汗だせ、知恵をだせ」。今日の公開授業では、子どもたちがよく声を出し、よく汗をかき、よく考えて活動していた。そのような姿は、きっと100周年の大会でも大切になる部分である。また、私の恩師である高橋健夫先生は、よい体育授業の基礎的条件として「どれだけ動いたか」という授業の勢いと、「どんな表情をしているか」という授業の雰囲気을挙げていた。これらの条件は、どの学年、どの単元、どの授業でも当てはまる。さらに、教師と子どもの信頼関係や授業のルールは、授業の基礎・基本である。これらのことは常に大切にしていける必要がある。

一方、今の社会や子どもの実態に対応した流行の部分にも注目する必要がある。文部科学大臣からの諮問において、「判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べる力の低さ」や「自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識の低さ」が指摘されている。実際に、国際調査の結果からも、日本の子どもたちは、「自分が価値ある人間か」「自分はダメな人間か」といった項目で他国との差が示されている。体育の授業は、衆人環視のなかで即時的に評価される特徴があるので、授業で大きな自信を付けることもあれば、大きな傷を生じさせてしまうこともある。体育の授業で「私はできる」「やればできる」といった自信を付けさせてほしい。

8月26日に教育課程企画特別部会から、今後の学習指導要領の改訂に向けた論点整理が出された。そこでは、新しい学習指導要領で目指す姿が述べられており、体育科では、「する・みる・支える」がキーワードになっている。東京都のオリンピック教育推進校では、すでに「する・みる・支える」人の育成を目標に実践研究が取り組まれている。今、我が国ではスポーツ立国に向けて、国民がスポーツの意義や価値を共有し、スポーツの感動や楽しさを分かち、互いに支え合うという「新しいスポーツ文化」の確立が目指されている。ライフステージで見れば、スポーツに選手やコーチとしてかわる人もいれば、審判や大会ボランティアとしてかわる人もいる。また、応援する人や視聴者としてかわる人もいる。体育の授業でも、運動をするだけでなく、みたり、支えたりする場面がある。つまり、体育の授業では、「する・みる・支える」という素地を養っていることになる。運動をするだけでなく、様々な立場で前向きな気持ちを持ち、愛顔で取り組む子どもたちを育てていくことが大切である。

愛媛大会の提案

愛媛大会では、「どのような愛顔を引き出すのか」「どのようにして愛顔を引き出すのか」という二つのことが提案された。「どのような愛顔を引き出すか」については、大会要項に、「『わかる』『できる』楽しさや喜びを追求し、仲間と協働しながら個や集団の課題を解決し、活力ある愛顔いっぱいの子どもたち」と述べられている。その姿を具体化、可視化していくことが重要であり、学習指導案には、実現したい子どもの姿、教師の願いが示されている。このように、単元を通して育てたい児童像、単元終了時に「このような姿にしたい」というゴールイメージをしっかりと設定することが大切である。また、授業は、限られた時間数、人数、施設・用具の中で確かな成果を残さなければならないので、「単元構想」「授業設計」「教材づくり」「教師のかかわり」が重要になってくる。まず、大切にしたいことは、「どのような授業をするのか」「どんな子どもを育てるのか」という、よい授業のイメージをもつことである。そして、子どもの愛顔を引き出すには、「豊かなかかわり」が不可欠である。愛媛大会では、「仲間との豊かなかかわり」「教材との豊かなかかわり」「豊かなかかわりを支える ICT の活用」という三つの視点をもって、研究が進められた。

「仲間との豊かなかかわり」について

「『聴く』『伝える』場面を重視し、互いに学び合う学習を展開すれば、課題の解決に向けて主体的に仲間とかかわり、仲間と共に伸びる『愛顔いっぱい』の児童が育つであろう」と述べられている。具体的には、場の工夫、聴く・伝える態度の育成、見る視点の明確化、動きや思考を高める支援の仕方などがある。

今日、他者と協働しながら、創造的に生きていくために必要な資質・能力の育成が求められている。リーダーシップやチームワーク、コミュニケーション能力のようなものは、体育だからこそ教えることができ、身に付けさせることができるのではないだろうか。さらに、どのように社会や世界とかかわり、よりよい人生を送るかといった態度形成が大きな課題となっているが、体育科では態度が具体的な指導内容として示されている。小学校から中学校、高等学校を通して、公正な態度、協力する態度、責任ある態度、参画する態度、そして健康・安全面の態度を育てている。そのために、まずは、雰囲気共有する居心地のよいクラスやチームを作っていくことが大切である。共通の目標をもち、一体感や所属感をもてるようにしていくとよい。運動が嫌いな子どもは運動自体が嫌いなわけではない。運動がうまくできない姿を見ている周りの目が気になって運動が嫌いになる場合が多いのである。がんばりや伸びを認め合う、あるいは一生懸命支えている役割を認めてもらうことは、仲間との豊かなかかわりを高めることにつながる。仲間との豊かなかかわりを考えるもう一つの柱は、「知っていること」「できること」をどう使うかという思考力、判断力、表現力の育成である。実は、体育の授業では、「できる」「かかわる」「わかる」ことに関連して、友達と動き方を工夫したり、場を工夫したりしながら運動を楽しみ、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度を育てている。この教え合う活動を豊かにしていくことが仲間とのかかわりを豊かにしていくことにつながる。

今後の課題は、みる力や支える力の育成を具体的にどう図っていくかである。どのように主体的、協働的にアウトプットさせるのかを求めて、教師の支援の仕方を検討していかなければならない。

「教材との豊かなかかわり」について

「系統性をもたせた単元の構成を工夫すれば、『わかる』こと『できる』ことの両方を満たし、進んで個や集団の力を伸ばそうとする『愛顔いっぱい』の児童が育つであろう」と述べられている。子どもたちが夢中になって活動できる魅力的な単元の構成と授業づくり、あるいは、学びを深める教材、

教具の工夫が大切である。今日の公開授業や研究発表にも、オリジナル教材の開発、単元構成、場やコースの設定、学習カードなどの工夫が多く見られた。子どもの目線、子どもの感覚でつくっていき、授業のどこに子どもたちは魅力を感じるのかを考えていくことが大切である。そして、そこに浸らせるための教師の言葉掛けも必要になってくる。

また、授業において、魅力に触れさせようとしても、技術的な課題が生じる場合もある。技術的な部分をできるだけ易しくしておく、よりその本質に迫れることができる。「分かりやすい」「わたしにもできる」「やってみたい」「伝えたい」と思える魅力的な教材・教具を開発し、「動きを引き出す感覚的な言葉」「思考を引き出す意図的な言葉」「行動を引き出す心に響く言葉」を掛けることで、子どもたちは、教材と豊かにかかわっていくようになる。

「豊かなかかわりを支える ICT の活用」について

可視化、比較、蓄積、共有という形で目的に分けて整理されていた。2010年に椿小学校では、ICTに関するハードとソフトの環境を整え、10年後には、このような授業が実現できたらよいと思える授業づくりに取り組み始めた。今日の授業では、そのような提案がされていた。今後、ICTをどのように活用していくのかを考えることが課題である。子どもたちにいっぱい道具を使わせていくことも大切だが、まずは、教師自身が子どもたちの思考を促すためにICTを活用することが大切である。モデルを見せることで課題を認識させたり、自分の実態を把握させるために事実を見せたりするような使い方が考えられる。ICTの活用の目的を具体化させ、思考・判断の活性化を図っていくことがICT活用の重要な視点ではないだろうか。

授業とは、単元最後の感動を目的とし、そのために挑戦させ、そして出会いをつくっていくものである。ビフォーをしっかり撮っておくと、子どもがどれだけ伸びたか、どれくらい成長したか、どれくらいがんばったかを評価できる。そのためには、安定してICTを活用できる条件を整えておく必要がある。ICTの活用は、今後ますます重要視されるので、「いつでも、簡単に、タイミングよく（ICT）」活用し、これからもできることを進めてほしい。

愛媛では、「かかわり」の視点を持ちながら研究を進めてきたが、もう一つかかわりの視点が今日の公開授業や研究発表の中にはあった。今、教育改革の中で「チーム学校」ということが言われている。今回の授業でも体育専科教員が授業にかかわっていた。また、健康センターの保健師、養護教諭がかかわっていた。研究発表の中にも外部人材を活用した授業実践が紹介されていた。そのような人と人とのつながりが、これからの授業で求められる。「教育は人なり」と言われるが、ICTを使うのも人であり、教育とは最終的に「人」である。子どもの愛顔を引き出すには、何よりも教師の愛顔が必要である。

新しい風を

中・四国から新しい風を起し、中・四国の中だけでなく、全国に本大会の成果や課題を発信していただきたい。成長し続け、持続可能な体育授業研究をしていくことが今後の課題ではないかと考える。「経験は宝なり、継続は力なり」の言葉のとおり、今回の経験を宝とし、そして継続していくことが本当の力になっていくのではないだろうか。来月には広島で全国学校体育研究大会が開催される。そこでもよりよい授業が発信されるだろう。愛媛から広島へ、そして来年の島根へ、それぞれの県がよりよい授業を発信し、新しい風を起こして行ってほしい。そして、各県、各学校、各クラスで、子どもたちのために「愛顔いっぱいの体育学習」を広めてほしい。

60周年記念 会員表彰者

【鳥取県】

鳥取市立湖南学園小学校

伊藤 賢二



【愛媛県】

伊予市立郡中小学校

合田 和彦



【島根県】

松江市立美保関小学校

黒見 ひとみ



【香川県】

丸亀市立城坤小学校

前谷 智仁



【岡山県】

倉敷市立倉敷西小学校

高上 清敬



【徳島県】

徳島市上八万小学校

坂口 千秋



【広島県】

広島市立草津小学校

坂口 由紀子



【高知県】

高知市立横浜小学校

小野 剛



【山口県】

下関市立熊野小学校

重富 武彦



本連盟創立60周年を記念して、体育研究における理論と実践を兼ね備え、各県体育科教育の充実と発展に貢献された現場の先生1名ずつ計9名を、中・四国小学校体育連盟60周年記念大会レセプションで表彰を行った。

各県研究主題と主な研究会・研修会 (2015 年度)

香川県	<p>【研究主題】 子どもと共に創る体育学習～子どもの心と体を見つめ、確かな学力を保證する指導の在り方～</p> <p>7月28日 香川県小学校教育研究大会 体育部会夏季研修会 研究部提案・全体指導 講演「体育の授業の質保証」(講師 岡出 美則 筑波大学教授)</p>
徳島県	<p>【研究主題】 身体がうごく・みんなでうごく・心がうごく体育学習～子どもの姿と意識の見取りから舵を取る～</p> <p>7月31日 第61回 徳島県小学校体育指導者講習会 分科会1・分科会2・全体会</p> <p>11月20日 第57回 徳島県小学校体育科教育研究大会 公開授業・分科会 講演(講師 高田 彬成 文部科学省スポーツ・青年局・体育参事官付教科調査官)</p>
高知県	<p>【研究主題】 運動好きな子どもを育てる体育学習 ～ユニバーサルデザインの視点から授業を見つめる～</p> <p>8月7日 平成27年度 高知大学教育学部附属小学校 夏季学習交流会 実技① 縄跳び講習会「短縄・長縄・ダブルタッチ」 実技② 縄跳び講習会「ダブルタッチ」 (講師 神家 一成 高知大学教授)</p>
愛媛県	<p>【研究主題】 愛顔(えがお)いっぱい 体育学習 -豊かなかかわりを通して-</p> <p>8月6日 第3回事前研究会 基調提案・分科会①・分科会② 対談(講師 高田 彬成 文部科学省スポーツ・青年局・体育参事官付教科調査官 日野 克博 愛媛大学准教授) 講演(講師 高田 彬成 文部科学省スポーツ・青年局・体育参事官付教科調査官)</p>
岡山県	<p>【研究主題】 課題に向き合いながら、身につけた力を活用し続ける岡山っ子の育成</p> <p>8月24日・25日 夏季研修会 中・四国小学校体育研究大会リハーサル 講演「子どもとスポーツ・運動のあり方～これからの体育授業をからめて～」 (講師 菊 幸一 筑波大学教授)</p>
島根県	<p>【研究主題】 動いて気づく できていかす しまねっ子 ～動きを高め、運動の醍醐味を味わう体育学習～</p> <p>7月27日 第26回 島根県小学校体育授業研修会 公開授業Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 研究協議、授業・運動教材解説、質疑応答</p> <p>第51回 島根県学校ダンス指導者研修会 実技研修① 表現運動・ダンス (講師 宮本 乙女 日本体育大学運動学科教授) 実技研修② フォークダンス (講師 永島 愛子 黒見 ひとみ 梶谷 朱美 島根県フォークダンス連盟公認指導者)</p>
広島県	<p>【研究主題】 「わかる・できる・かかわり合う」体育学習</p> <p>7月31日 第81回 夏季体育研修会 実技研修「表現リズム遊び・表現運動の指導法」</p> <p>11月12日・13日 第54回全国学校体育研究大会広島大会 シンポジウム、特別講演、授業公開、研究発表・研究協議</p>
山口県	<p>【研究主題】 「楽しい体育」から「もっと楽しい体育」へ ～「動き」と「学び」を確かに高める体育学習～</p> <p>7月31日 第11回山口県小学校体育実技研修会 講話・実技指導：「ゲーム・ボール運動」(講師 白旗 和也 日本体育大学教授)</p>
鳥取県	<p>【研究主題】 勢いのある鳥取の体育 ～はずむ心 豊かな学び 確かな力～</p> <p>8月10日・11日 鳥取県小学校体育夏季一泊研修会 講演「勢いのある体育学習の授業づくり」、実技研修「教材づくりと指導のポイント」 講義「鳥取県の小学校体育に望むこと」 中・四国小学校体育研究大会(愛媛大会)領域別分科会プレ発表</p>

第54回中・四国小学校体育研究大会（島根大会） 第16回 島根県小学校体育研究大会（松江大会） 1次案内（案）

1. 大会主題

動いて気づく　できていかす　しまねっ子（案）
—動きを高め、運動の醍醐味を味わう体育学習—

2. 主催 中・四国小学校体育連盟 島根県小学校体育連盟

3. 後援 文部科学省 島根県教育委員会 松江市教育委員会
島根県小学校校長会 松江市小学校校長会 島根県小学校教育研究会

4. 主管 第54回中・四国小学校体育研究大会（島根大会）実行委員会
松江市立母衣小学校

5. 期日 平成28年（2016年）10月21日（10月第3金曜日）

6. 会場 2会場 開催
松江市立母衣小学校

〒690-0883 松江市北田町273 TEL 0852-21-2128 Fax 0852-21-3161
松江市総合体育館（松江北公園体育施設）
〒690-0826 松江市学園南1-21-1 TEL 0852-25-1700 Fax 0852-21-8950

7. 講師 全体指導 中・四国小学校体育連盟最高顧問 筑波大学名誉教授 成田十次郎
パネルディスカッション 桐蔭横浜大学スポーツ教育学科長 松本格之祐
滋賀大学教育学部教授 辻 延浩
日本体育大学体育学部教授 白旗 和也

8. 日程

8:10 ～ 8:40	8:45 ～ 9:30	9:45 ～ 10:30	10:30 ～ 11:05	11:05 ～ 11:20	11:20 ～ 12:00	12:00 ～ 12:10	12:10 ～ 12:55	13:00 ～ 14:30	14:40 ～ 16:45			
受付	公開授業Ⅰ	公開授業Ⅱ	移動・休憩	授業研究会			昼食	提案発表分科会		全体会		
				基調提案	研究協議	指導・助言		提案発表 (県外)	提案発表 (県内)	研究協議	指導助言	開会行事

9. 分科会提案

	分科会名	県外発表	県内発表
1	体づくり運動（体ほぐし）	山口県	島根県
2	器械・器具（低）	鳥取県	島根県
3	走・跳の運動（低・中）	広島県	島根県
4	ゲーム（低・中）	鳥取県	島根県
5	体づくり運動（多様な動き・体力）	岡山県	島根県
6	器械運動（中・高）	広島県	島根県
7	陸上運動（高）	高知県	島根県
8	水泳（低・中・高）	香川県	島根県
9	ボール運動（高）	徳島県	島根県
10	表現運動（低・中・高）	山口県	島根県
11	保健（中・高）	愛媛県	島根県

10. 提案授業

学年	領 域	会 場
1	表現運動	総合体育館
2	ゲーム	総合体育館
3	器械運動	母衣小学校
4	走・跳の運動	母衣小学校
5	ボール運動	総合体育館
6	保健	母衣小学校
6	体づくり運動	総合体育館



中・四国小学校体育連盟歴代役員名簿（平成 18 年度～平成 27 年度）

年 度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	
当 番 県	愛 媛 県	鳥 根 県	香 川 県	岡 山 県	徳 島 県	
会 長	宮田 武史	忌部 幹夫	國重 英二	清原 義之	佐々木泰男	
理 事 長	中川 祐二	杠 憲司	廣瀬 貴志	那須 健二	湯口 雅史	
最高顧問	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	
特別顧問	門田 宜雄	門田 宜雄	門田 宜雄			
顧 問	矢野 利美					
	三好 弘					
	方川 淳					
	漆原シズ子					
参 与	大内 博久					
	小林 伸郎					
		葛目 英男	葛目 英男	葛目 英男	葛目 英男	
				髙原 彰	髙原 彰	
香川県	副 会 長	三好 隆大	三好 隆大	國重 英二	國重 英二	平田 隆久
	常務理事	廣瀬 貴志	廣瀬 貴志	廣瀬 貴志	谷岡 直樹	谷岡 直樹
	専門委員	宮崎 彰	宮崎 彰	宮崎 彰	宮崎 彰	宮崎 彰
	専門委員	長町 裕子	長町 裕子	長町 裕子	長町 裕子	長町 裕子
	専門委員	北村 篤子	北村 篤子	森 浩輔	森 浩輔	森 浩輔
徳島県	副 会 長	髙原 彰	髙原 彰	髙原 彰	佐々木泰男	佐々木泰男
	常務理事	阿部 孝彦	阿部 孝彦	阿部 孝彦	湯口 雅史	湯口 雅史
	専門委員	田中 伸幸	田中 伸幸	田中 伸幸	田中 伸幸	月本 直樹
	専門委員	元木 啓之	元木 啓之	元木 啓之	元木 啓之	元木 啓之
専門委員	鈴江 真弓	鈴江 真弓	二宮あゆみ	二宮あゆみ	二宮あゆみ	
高知県	副 会 長	山中 潤	山中 潤	山中 潤	前田 開	前田 開
	常務理事	大塚 剛弘	大塚 剛弘	大塚 剛弘	宇賀 孝司	大塚 剛弘
	専門委員	宇賀 孝司	宇賀 孝司	宇賀 孝司	飯田 啓雅	飯田 啓雅
	専門委員	山崎 功一	山崎 功一	山崎 功一	渡邊 拓哉	渡邊 拓哉
専門委員	井手 泉	岡村 涼子	田所 潤子	田所 潤子	田所 潤子	
愛媛県	副 会 長	宮田 武史	宮田 武史	本田 隆彦	本田 隆彦	本田 隆彦
	常務理事	中川 祐二	大塚 栄二	大塚 栄二	大塚 栄二	山本 智啓
	専門委員	大塚 栄二	山本 智啓	山本 智啓	山本 智啓	土井祥二郎
	専門委員	大森 茂樹	曾我部秀司	曾我部秀司	曾我部秀司	曾我部秀司
専門委員	高橋 美鈴	高橋 美鈴	高橋 美鈴	高橋 美鈴	亀田 智美	
岡山県	副 会 長	牧野 泰三	牧野 泰三	清原 義之	清原 義之	清原 義之
	常務理事	有森 貢	那須 健二	那須 健二	那須 健二	那須 健二
	専門委員	鳥越有実子	鳥越有実子	鳥越有実子	鳥越有実子	金田 典子
	専門委員	山本 和明	山本 悟	山本 悟	山本 悟	菅野 純郎
専門委員	菅野 純郎	三村 忠	三村 忠	三村 忠	難波 淳志	
鳥根県	副 会 長	佐藤 誠	忌部 幹夫	野津 和夫	野津 和夫	野津 和夫
	常務理事	川瀬 祐悦	杠 憲司	杠 憲司	杠 憲司	杠 憲司
	専門委員	杠 憲司	团野 晶夫	团野 晶夫	团野 晶夫	团野 晶夫
	専門委員	渡部輝美子	渡部輝美子	渡部輝美子	渡部輝美子	三浦 慶子
専門委員	塚田 英樹	塚田 英樹	塚田 英樹	竹下 透	竹下 透	
広島県	副 会 長	西山 伏見	西山 伏見	西山 伏見	河野 一則	河野 一則
	常務理事	石田 知己	細川 洋	細川 洋	細川 洋	細川 洋
	専門委員	坂口 智子	坂口 智子	石井 淳之	石井 淳之	石井 淳之
	専門委員	細川 洋	佐藤 由幸	中島 美佳	中島 美佳	中島 美佳
専門委員	福永 徹					
山口県	副 会 長	江國 俊二	江國 俊二	水上 哲彦	水上 哲彦	水上 哲彦
	常務理事	増田 尚哉	増田 尚哉	増田 尚哉	増田 尚哉	増田 尚哉
	専門委員	中谷 靖彦	中谷 靖彦	中谷 靖彦	田中 大輔	田中 大輔
	専門委員	中村 浩子	中村 浩子	中村 浩子	中村 浩子	中村 浩子
専門委員	萱野 貴光	萱野 貴光	萱野 貴光	田中 孝治	田中 孝治	
鳥取県	副 会 長	山根 俊道	山根 俊道	西尾 幹雄	西尾 幹雄	西尾 幹雄
	常務理事	長谷川誠一	長谷川誠一	矢谷真一郎	矢谷真一郎	矢谷真一郎
	専門委員	山本 正人	山本 正人	山本 正人	山本 正人	山本 正人
	専門委員	安本 雅紀	森本 繁	森本 繁	森本 繁	森本 繁
専門委員	岡本 律子	岡本 律子	岡本 律子	長田 美穂	小田 伸之	

年 度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
当 番 県	広 島 県	高 知 県	山 口 県	鳥 取 県	愛 媛 県	
会 長	河野 一則	前田 開	水上 哲彦	民野 尚義	芝田 眞次	
理 事 長	細川 洋	大塚 剛弘	増田 尚哉	矢谷真一郎	土井祥二郎	
最高顧問	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	成田十次郎	
顧 問	矢野 利美	矢野 利美	矢野 利美	方川 淳	大内 博久	
	三好 弘	三好 弘	三好 弘	大内 博久	中山 龍興	
	方川 淳	方川 淳	方川 淳	中山 龍興	横山喜一郎	
参 与				横山喜一郎		
	大内 博久	大内 博久	大内 博久	小林 伸郎	小林 伸郎	
	小林 伸郎	小林 伸郎	小林 伸郎	葛目 英男	葛目 英男	
	葛目 英男	葛目 英男	葛目 英男	嵩原 彰	嵩原 彰	
	嵩原 彰	嵩原 彰	嵩原 彰			
中山 龍興	中山 龍興	中山 龍興				
横山喜一郎	横山喜一郎	横山喜一郎				
香 川 県	副 会 長	中数賀重幸	梶野 雅義	梶野 雅義	横山 新二	横山 新二
	常務理事	谷岡 直樹	谷岡 直樹	山西 達也	山西 達也	山西 達也
	専門委員	宮崎 彰	宮崎 彰	森 浩輔	森 浩輔	木田 英登
	専門委員	長町 裕子	長町 裕子	長町 裕子	大西 美輪	大西 美輪
徳 島 県	副 会 長	福岡 俊和	片山 京子	片山 京子	沖田 勝昭	沖田 勝昭
	常務理事	湯口 雅史	元木 啓之	寺井 孝文	寺井 孝文	川村 恭弘
	専門委員	月本 直樹	月本 直樹	月本 直樹	月本 直樹	月本 直樹
	専門委員	山中 祐二	山中 祐二	前田 浩史	前田 浩史	前田 浩史
専門委員	二宮あゆみ	二宮あゆみ	二宮あゆみ	二宮あゆみ	甘利 和美	
高 知 県	副 会 長	前田 開	前田 開	田内 聡	田内 聡	田内 聡
	常務理事	大塚 剛弘	大塚 剛弘	川上 直人	内田 裕文	内田 裕文
	専門委員	飯田 啓雅	飯田 啓雅	田所 潤子	田所 潤子	田所 潤子
	専門委員	渡邊 拓哉	渡邊 拓哉	田村さちよ	田村さちよ	大西 梓司
愛 媛 県	副 会 長	本田 隆彦	本田 隆彦	平松 恭助	芝田 眞次	芝田 眞次
	常務理事	山本 智啓	山本 智啓	土井祥二郎	土井祥二郎	土井祥二郎
	専門委員	土井祥二郎	土井祥二郎	高須賀知輝	土手 康之	土手 康之
	専門委員	曾我部秀司	土手 康之	土手 康之	八塚 伝	八塚 伝
岡 山 県	副 会 長	清原 義之	平坂 正夫	平坂 正夫	平坂 正夫	荻野 克己
	常務理事	小林 紀彦	小林 紀彦	小林 紀彦	小林 紀彦	小林 紀彦
	専門委員	金田 典子	金田 典子	辻田 和代	辻田 和代	辻田 和代
	専門委員	菅野 純郎	竹中 一雄	竹中 一雄	竹中 一雄	西田 真悟
鳥 根 県	副 会 長	難波 淳志	難波 淳志	難波 淳志	難波 淳志	難波 淳志
	副 会 長	中永 秀繁	中永 秀繁	神門 三郎	神門 三郎	作野 宏喜
	常務理事	杠 憲司	杠 憲司	古藤 忠男	古藤 忠男	古藤 忠男
	専門委員	団野 晶夫	団野 晶夫	団野 晶夫	団野 晶夫	団野 晶夫
広 島 県	専門委員	三浦 慶子	三浦 慶子	三浦 慶子	三浦 慶子	三浦 慶子
	専門委員	竹下 透	竹下 透	竹下 透	郷原 秀文	郷原 秀文
	副 会 長	河野 一則	河野 一則	河野 一則	河野 一則	河野 一則
	常務理事	細川 洋	細川 洋	佐藤 由幸	佐藤 由幸	佐藤 由幸
山 口 県	専門委員	小西 潤児	小西 潤児	小西 潤児	小西 潤児	小西 潤児
	専門委員	中島 美佳	船原 浩司	船原 浩司	船原 浩司	船原 浩司
	専門委員	福永 徹	佐藤 由幸	西岡 宏	西岡 宏	西岡 宏
	副 会 長	水上 哲彦	水上 哲彦	水上 哲彦	水上 哲彦	岡野富司雄
鳥 取 県	常務理事	増田 尚哉	増田 尚哉	増田 尚哉	菊川 和彦	菊川 和彦
	専門委員	田中 大輔	田中 大輔	田中 大輔	大庭 紀之	大庭 紀之
	専門委員	中村 浩子	中村 浩子	中村 浩子	佐野さとみ	佐野さとみ
	専門委員	田中 孝治	田中 孝治	田中 孝治	田中 孝治	田中 孝治
鳥 取 県	副 会 長	能藤 善彦	民野 尚義	民野 尚義	民野 尚義	北村 知憲
	常務理事	矢谷真一郎	矢谷真一郎	矢谷真一郎	矢谷真一郎	山本 正人
	専門委員	森本 繁	小田 信之	小田 信之	小田 信之	夏目 貴史
	専門委員	本田 紀子	本田 紀子	本田 紀子	本田 紀子	好川 美香
専門委員	小田 信之	横田 威開	横田 威開	門脇 康裕	門脇 康裕	

機関誌『中・四国の体育』のあゆみと担当県

1号… 昭和47年 香川県 (創刊号) (第10回研究発表大会記念)	22号… 平成5年 高知県
2号… 昭和48年 岡山県	23号… 平成6年 山口県
3号… 昭和49年 広島県	24号… 平成7年 鳥取県 (40周年号)
4号… 昭和50年 高知県 (20周年号) (体育連盟発足20周年記念)	25号… 平成8年 愛媛県
5号… 昭和51年 鳥取県	26号… 平成9年 島根県
6号… 昭和52年 山口県	27号… 平成10年 香川県
7号… 昭和53年 島根県	28号… 平成11年 岡山県
8号… 昭和54年 愛媛県	29号… 平成12年 徳島県
9号… 昭和55年 香川県	30号… 平成13年 広島県
10号… 昭和56年 岡山県	31号… 平成14年 高知県
11号… 昭和57年 徳島県	32号… 平成15年 山口県
12号… 昭和58年 広島県	33号… 平成16年 広島県
13号… 昭和59年 高知県	34号… 平成17年 高知県 (50周年号)
14号… 昭和60年 山口県 (30周年号)	35号… 平成18年 山口県
15号… 昭和61年 鳥取県	36号… 平成19年 鳥取県
16号… 昭和62年 愛媛県	37号… 平成20年 愛媛県
17号… 昭和63年 島根県	38号… 平成21年 島根県
18号… 平成元年 香川県	39号… 平成22年 香川県
19号… 平成2年 岡山県	40号… 平成23年 岡山県
20号… 平成3年 徳島県	41号… 平成24年 徳島県
21号… 平成4年 広島県	42号… 平成25年 広島県
	43号… 平成26年 高知県
	44号… 平成27年 山口県 (60周年号)

編集後記

今年、中・四国小学校体育連盟は創立60周年を迎えました。これまで諸先輩方が築き上げてこられた中・四国小学校体育連盟の伝統を引き継ぎながら、さらに新しい視点を持ち、体育科学習の研究に取り組んでいきたいと考えています。

『中・四国の体育』第44号では、中・四国9県の現場の先生方の協力を得て編集している『わたしたちの体育』『表現運動CD』を活用した実践事例に加え、中・四国小学校体育連盟の事業を中心となって推進されてきた先生方からお寄せいただいた思いも掲載させていただきました。是非、ご一読いただき、今後の体育科学習の充実にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、『中・四国の体育』第44号の発行に当たりまして、執筆をお願いした先生方、各県において取りまとめをしていただいた先生方、ご多用の中ご協力いただき、誠にありがとうございました。

中・四国の体育 第44号(平成27年度)
中・四国小学校体育連盟
発行/平成28年3月 印刷/牟禮印刷株式会社



中・四国小学校体育連盟

<http://www.chushikoku-syotairen.jp>